

横浜市立矢部小学校
令和8年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
ふれあう ためす つくりだす やべっ子 きらきら かがやこう	〈主体性・自立心〉 〈コミュニケーション力・ 協調性〉 〈責任感〉

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○人とのつながりを大切にしながら、安全・人権・学習を軸にした、安心して学べる学校にします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに身につけさせたい資質・能力を明確にした意図的・計画的な教育活動を推進します。 ・子どもたちの現状を把握し、3つのプロジェクトで取組を進め、子どもたちの成長を育みます。 ・授業研究を通して、子どもたちの成長を育むとともに、教員の授業力向上を図ります。 <p>令和8年度研究主題 「ふれあう ためす つくりだす やべっ子」の実現に向けて ～主体的に学び、学びを実感できる授業づくり～</p>

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	① 日々の実践を積み重ね、主体的に学習に取り組む態度を育む。②学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる力を育てる。③授業研究や日々の研修を通して、教員の授業力向上をはかる。
担当 学力向上プロジェクト	

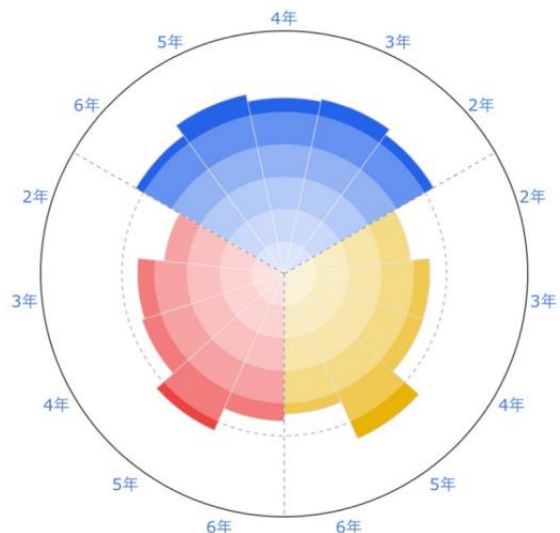
2 令和7年度横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力に関わる児童生徒の実態

市学力状況調査の結果より

- 本校では、ほぼ全学年で学力は市の平均を上回っている。
(令和7年度横浜市学力・学習状況調査において)
しかし、学習意識、生活意識については市平均よりも低く、課題がある。
- 子どもたちは、明るく素直に活動し、与えられた課題に真面目に取り組んでいる。しかし、子どもたち自身から「やってみたい！考えてみたい！」という意欲をもつことは不十分であり、難しい課題については最後までやり遂げることが困難な子どもも少なからずいる。このような実態から、子どもたち自身から「やってみたい！考えてみたい！」という意欲をもち、課題を最後までやり遂げる粘り強さをもつことが必要であると考え。
一昨年度から学年で意識して取り組み、授業研究会のたびに取り組みや子どもの姿から見える成果を共有し、常に目指す姿を意識できるように取り組んでいるため、学年に応じた主体的に取り組む態度の育成が一定の成果として養われてきている。

令和7年度



3 令和8年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◆めあてや物事を自分の事として捉え、活動や課題に主体的に取り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ○活動内容を分かりやすく伝えることにより、見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ○交流方法を工夫することで、子どもの視点を増やし、自分の考えを広めたり、深めたりする。 ○子どもが自分事として、主体的に活動に取り組めるような言葉がけや問いかけを行う。 	
2年		<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが達成感を味わえるような活動や自分の活動について振り返る時間をつくる。 ○ペアやグループでの活動が必要になる場面をつくる。 ○子ども同士の関わりを増やし、様々な視点で物事を捉えられるようにする。 	
3年	◆粘り強く取り組み、主体的に問題解決する力	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じた意図的グループ編成（同じ考え・違う考え、同じ場面・違う場面同士 など）を行い、交流の工夫をする。 ○基本的な学習の定着を図るとともに、振り返りを充実させ、子ども自身が自己の学びを実感できるようにする。 	
4年		<ul style="list-style-type: none"> ○学習のめあてや流れを明確にすることで、子どもが見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ○自分の考えを交流する場面を設定することで、主体的に問題解決に取り組むことができるようにする。 ○学習後にふり返りの時間を設けることで、学んだことや身についたことを実感できるようにする。 	
5年	◆問題解決に見通しをもち、粘り強く、主体的に取り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強さを育てるために、学習活動をスモールステップで構成し、各段階の内容や目的を明確にすることで、子どもたちが見通しをもって課題に取り組めるようにする。 ○主体性を育てるために、調べ方や考え方について自ら選択できる学習場面を設定し、自分の学びを自覚しながら課題に向き合えるようにする。 	
6年		<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に取り組めるようにするために、話し合い活動を通して、友達の意見をよく聞き、そこから考えを深めて自分の考えを比較・検討する力を育む。 ○粘り強く取り組むために、子どもの知識・技能の定着が必要である。そのため、AIドリルの活用など、個の実態にあった課題を提示するようにする。 	
個別支援学級	◆感じたこと(感謝・助けを求める・謝り・理由を聞く等)を言葉にする力	<ul style="list-style-type: none"> ○要求や自分の思いを、自分なりの表現で伝えられるようにする。 ○学習の中で体験的な活動を多く取り入れ、感じたことや気付いたことを言葉や絵で表現したり発表したりして、互いを認め合えるようにする。 <p>※自閉症・情緒障害学級の児童は、上記各学年の取組を実態に合わせて選択する。</p>	